



# MBT NEWS LETTER

第242号  
'23/10/31

## 10/27、細井理事長 他3名の先生方が湘南アイパークで『医学を基礎とするまちづくり (MBT) と産業創生』と題し、奈良医大の研究とMBT活動を紹介



- ・約150社、2000人のテナントが集結する日本初の製薬企業発サイエンスパークの湘南アイパーク（神奈川県藤沢市）で、10月27日（金）、細井裕司理事長と3人の研究者が対面とオンラインで奈良医大の研究成果やMBT活動を紹介する講演イベントが開催されました（左：会場写真）。
- ・奈良医大も湘南アイパークのアカデミア会員として登録参加しており、今回の機会を得たものです。
- ・地方の医科単科大学があらゆる業種の企業約200社と共に行うMBT活動や、奈良医大の研究内容、更にはベンチャー企業活動に興味を寄せるテナントらが参加し、活発な質疑も行われました。

・4人の講師の講演要旨を以下に記載します。

### 「軟骨伝導の発見からMBTの発想へ」

**細井裕司** 奈良医大理事長・学長、MBTコンソーシアム理事長



- ・軟骨伝導の発見を行い、その特徴を活かした、ヘッドホンや集音器イヤホンが商品化され社会実装を果たした。この一連の取り組みを通して医学知識を広く産業やまちづくりに応用することを発想し2016年にMBTコンソーシアムを立ち上げ現在約200社が参加している。

### 「MBTによる産業創生と地域貢献」

**伊藤利洋** 奈良医大医学部免疫学講座教授・奈良医大MBT研究所教授



- ・コロナ禍において、奈良県が一大産地である柿の柿渋抗菌作用に着目、柿渋粉末をのど飴に混ぜて舐めて採取した唾液のコロナ不活化効果を確認、のど飴商品化に貢献した。また、吉野杉のチップ抽出液は他県産に比べアレルギーを誘導するマクロファージの分化を大きく抑制することを確認、吉野杉評価を通して過疎化が進む奈良県南部の産業振興に貢献。

### 「いよいよ全国へ！医学を基礎とするまちづくり」

～スマートな“まち”の実現に向けて～

**梅田智広** 奈良医大MBT研究所副所長 研究教授、MBTリンク(株)代表取締役社長



- ・電力データは家庭内の電気機器の稼働を分析でき素のライフスタイルデータを得る最適な手段である。日々の電力データをスコア化し変化を見ることで家庭内の異常が検知できる。北海道から沖縄までの環境が異なる地域ごとに電力データを蓄積し、健康見守りを目指す。

### 「分子を見て創薬する～大学発ベンチャーの挑戦～」

**森英一朗** 奈良医大医学部未来基礎医学准教授、モルミル(株) CEO



- ・細胞内でいろいろ形を変えるたんぱく質分子を見る中から病気の原因分子を発見し治療や創薬につなげることを目指す。その分子を見る手段がCHEmir（ケミストリー分析）とMAGmir（核磁気共鳴法）である。現在ALS（筋萎縮性側索硬化症）の評価や創薬に取り組む。奈良医大のみならず国内の各研究分野の第一人者と深く連携して取り組みを推進している。

発行

(一般社団法人) MBTコンソーシアム、(公立大学法人) 奈良県立医科大学  
奈良県橿原市四条町840番地研究推進課内 担当 塩山

TEL : 0744-29-8853 (直通)、FAX : 050-3164-5598、Email: mbt@mbt.or.jp